

事前意見及び回答

議事1 高槻市高齢者福祉計画・介護保険事業計画進捗状況（令和7年度上半期）について		
提出委員	ご質問・ご意見等	回答
No.1	【資料1 P.4】生活支援サポーター	回答所属：長寿介護課
きよた委員	生活支援サポーターによる通院・通院介助や家事支援等の支援を行ったとありますが、支援内容について、例えばゴミ出しならどういう人に、何回まで支援をするのですか。	生活支援サポーター事業は介護保険サービス等で対応できない内容について、ボランティアである生活支援サポーターが支援していますが、支援が長期間に及ぶ場合やボランティアでの対応が難しい専門的な内容等は、他のサービスを紹介しています。ゴミ出しについても、支援回数の制限はありませんが、退院後、介護保険サービスが決まるまでの利用や一時的に出た大型ごみを出す対応などを行っています。 令和7年度上半期は、利用人数56人（p.36）のうち、ゴミ出しの利用は5人でした。1回のみ利用から概ね2か月程度の利用までありました。
No.2	【資料1 P.9】災害時に備えた連携強化	回答所属：長寿介護課
高家委員 高田委員	災害に備えた高齢者に対する支援体制の整備の一つとして、「介護保険事業者協議会による防災研修会を始め、学生と連携した取組など災害対策の取組を支援した」とありますが、具体的にはどのような取組なのでしょう。	高槻市介護保険事業者協議会（以下、介事協）は、市内に事業所を有する介護サービス事業者で構成され、連携して介護サービスの質の向上を図るために活動しています。そのうちの防災対策部会では、定期的な部会及び年2回の防災研修会を通して、関西大学社会安全学部の学生と連携し、主に災害に対する自助の啓発に取り組んでいます。 令和7年度は、各事業所で作成が義務づけられた事業継続計画（BCP）の見直しや避難訓練について、学生と意見交換を行い、研修会において防災福祉クロスロード演習を行いました。
No.3	【資料1 P.9】災害時に備えた連携強化	回答所属：長寿介護課
高家委員	災害時対策を啓発するため、「健幸ポイント事業で交換できる記念品として、新しく口腔ケアボトルを設定した」とありますが、どのようなものなのでしょう。	令和7年度より新設したポイントの記念品として設定した口腔ケアボトルは、災害時など水のない状況でも口腔ケアが実施できるよう、歯ブラシ、フロス、液体はみがきとミニコップ、歯磨きティッシュをボトルに入れてあります。また、有事も平時も行える「ますます元気体操お口の体操」等を紹介した用紙を同封し、オーラルフレイル予防について災害時対策として啓発する機会としています。
No.4	【資料1 P.23】被保険者数及び要介護認定者数	回答所属：長寿介護課

薦田委員	要介護認定の更新申請者数について、前年度（令和6年度）と比較して、大きく減少している理由を教えてください。	新型コロナウイルス感染症の流行により実施していた有効期間を12か月延長する取扱いを令和6年1月末に終了したことにより、令和6年度は延長分の更新申請が一時的に大幅に増加したためです。 【参考】「年間合計（更新）」 令和5年度 7,206件 令和6年度 9,137件
------	---	--

No.5	【資料1 P.29,31】介護予防・生活支援サービス種類別利用状況（地域支援事業） 介護サービス基盤の状況	回答所属：長寿介護課
きよた委員	<p>前計画の2023年度（令和5年度）と比べ、要介護認定は2025年度（令和7年度）上半期で1%、認定者数は852人増えています。そのうち、要支援1、2で616人の増です。</p> <p>P29の利用状況について、要支援1、2の方の種別ごとの利用について、2023年度（令和5年度）と比べた利用状況の推移を教えてください。また、短時間通所サービスは2023年度（令和5年度）105回の利用がありましたが、2024年度（令和6年度）、2025年度（令和7年度）上半期ともに0回になっている理由についても教えてください。</p> <p>要支援・要介護状態区分別居宅サービス利用割合は2023年度（令和5年度）は52.7%、2025年度（令和7年度）上半期は55.9%ですすべての区分で増えています。利用料が負担になって、ケアマネージャーに「費用を抑えたい」と相談をして調整をしているという声も聞きます。利用料負担を理由にサービスを抑制しているケースはありますか。</p>	<p>1点目について、種別ごとの利用状況については、以下のとおりです。短時間通所サービスを除いて概ね同水準で推移しています。</p> <p>介護予防訪問サービス（人／年）：R5 21,379人 R6 21,300人 R7上半期 10,587人 生活援助訪問サービス（回／年）：R5 633回 R6 571回 R7上半期 212回 介護予防通所サービス（人／年）：R5 29,038人 R6 30,024人 R7上半期 15,335人 短時間通所サービス（回／年）：R5 105回 R6 0回 R7上半期 0回 介護予防ケアマネジメント（人／年）：R5 23,127人 R6 23,055人 R7上半期 11,545人</p> <p>また、短時間通所サービスについての利用減少は、介護予防通所サービスなどその他のサービス利用が考えられます。</p> <p>2点目については、把握しておりません。</p>

議事2 地域包括支援センター運営状況（令和7年度上半期）等について

No.1	【資料2 P.9】包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	回答所属：福祉相談支援課
薦田委員	五領・上牧地域包括支援センターについて、他の地域包括支援センターより、件数が多い理由を教えてください。	五領・上牧地域包括支援センターに確認をしたところ、要支援の利用者が要介護になり、ケアマネージャーに引継ぐ際に行う支援を計上したと聞いております。他包括においても同様に引継ぎの際にケアマネージャーへの支援を行っており、同等の計上数が見込まれると考えております。包括的・継続的ケアマネジメントは、ケアマネージャーに対する後方支援のみならず、連携体制の構築や情報提供など支援内容が多岐にわたっており、どこまでを計上するのかの判断が難しいところではございますが、包括ごとに大きな差が生じることのないよう、可能な限り計上基準の統一を図りたいと考えております。